

## 名峰・大山の紅葉

鳥取県を代表する自然遺産に「鳥取砂丘」と「名峰大山」がある。この大山（だいせん）は標高 1729mの火山で中国地方の最高峰である。鳥取県西部の旧国名が伯耆国であったことから伯耆大山（ほうきだいせん）、またその山容から伯耆富士とも呼ばれている。古来より日本の四名山に数えられている。富士山とは違い大山は複成火山である。西側から見る伯耆富士の山容と、比高 400mの荒々しい男性的な北壁は約 2kmにわたる大断崖で、屏風型の岩肌があらわに立ちだかっている。

関西の紅葉にはまだ秋浅い時期であったが、ここ大山の紅葉は 10 月初旬より色づき始め、下旬から 11 月初旬にかけて見事に輝いていた。赤や黄色、橙色に染まる錦の紅葉絵巻は、日本でも屈指の美しい場所であり多くの観光客を楽しませてくれている。特に鍵掛峠は日本最大規模を誇るブナの原生林が七色に染まる紅葉のトンネルをなしている。そこを車窓をいっぱいにかけて、高原の澄んだ空気を全身で感じながらのドライブは、まさに至福のひと時を味わった。四季を持つ美しい日本。それぞれ季節の特徴と良さがある。とりわけ秋に紅葉する木々の変化は、自然とはいえ目の前にするとまるで一幅の絵画を見ているような満足感がある。

素晴らしい大山を中心として大山隠岐国立公園は広がっている。国立公園は全国で 29 を数えるが、国の予算で管理・保護をされている。美しい自然を守るためには勝手に建物を建てたり、道路を広げたり看板の取り付けが許されていない。更にそこに生息する動植物の採取から石ひとつ持ち帰ることも許されない。そうした目で大山周辺を見渡すとなるほどと納得がいく。いつまでも見事に輝き続けるこの紅葉を後世に伝えていきたいものだ。 撮影 2014 年秋

